

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 9. 9

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

「聖書から世界を見ると」

牧師 松谷 祐二

創世記 第一章1～13節

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であつて、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

神は言われた。「光あれ。」こうして、光があつた。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があつた。第一の日である。

神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があつた。第二の日である。

神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」そのようになった。神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。

神は言われた。「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。」そのようになった。地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。夕べがあり、朝があつた。第三の日である。
(新共同訳聖書)

聖書はこの記述で始まります。「初めに、神は天地を創造された」「神は」ではなく「神が」と訳したほうが、神が自らの意志と力でそうさせたのだ、そこからすべてが始まった、という意味が出るような気がします。

聖書が書かれた当時、当地の世界観では、世界は天(神の住まい)・地(人間や他の動植物の住まい)・深淵(地の底の水や深海、魔物や死者の住まい)の三層構造です。しかしそれさえも、神が創造なさって初めて、そのような形に成った。神が造られる前には、地は形を持たず虚しい「混沌」、深淵も闇に覆われ、茫漠たる水また水があ

るのみ。しかし、神の霊はすでにその上を動き、その働きを始めようとしていたと言います。

神が一言、一言お命じになるたびに、何か造り出され、それらがあるべき領域を定められていく。光と闇が分けられ、天(ドーム状の蓋のイメージ)の上と下に水は押しやられ、下の水はさらに乾いた地と海とに分けられ、地の上にはさまざまな種類に分けられた草や果樹が芽生え、種を持つて増え広がるようにされる。そして神は、その都度に「これを見て、良しとされた」。神は御自身の仕事の出来栄を喜ばれたのです。

科学の分野における宇宙や地球の始まり、進化論などの理論と、この聖書の記述のどちらが正しいのか、という問題で、昔から議論が戦わされてきたのですが——今もって真剣に議論している人々もいらつしやるのですが、この稿の筆者でありますわたしは、「これは世界が存在するようになったプロセスの科学的な説明ではない、世界が存在する意味、この世界とは根本的にどういう存在なのかを、物語的な仕方では表現したもの」と解釈する立場を取ります。

こういう仕方では世界の存在の意味が語られており、そこに科学的な証明の次元を超えた真実がある、とわたしたちが信じたとしますと、色々なことが新しく見えて来ます。

わたしたちの世界は、「たまたま」こうなったのではなく、神が喜びをもつて製作された、たぐいまれなる芸術作品なのだということが見えて来ます。この世界のすべてのものの成り立ちと、それがどうなっていくのか。わたしたち人間以上に、神がそれに関心を——愛おしいという感情さえも——お持ちなのです。

神が「かくあれ」と望まれ、言葉を発せられることで、世界は秩序を与えられて、良いものとなつた。そして、秩序立てられた美しい世界を享受し、管理する者として、わたしたち人間を創造されたのです。創造の第六の日についてこう書かれています。

創世記 第一章二六～二八節

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、

人を造らう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどつて人を創造された。神にかたどつて創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

「支配」という言葉に冷たい印象を受ける方は少なくないでしょう。しかし聖書は、悪しき小王たちが乱立して戦争を続けるよりも、理想的な一人の大王が現れて諸国を平定し、正しく支配、統治することで平和が訪れる、という感覚が普通である時代に書かれました。神のみ心を体現した王による、正しく恵み深い支配、そして究極的には神御自身による支配、神の国が、イスラエルの理想でした。神は、御自身の作品であるこの世界を、そのように「良く」支配するようにと、人間を御自分にかたどつて創造された。人間は、その光栄ある責務を負った存在なのだということを、聖書は語っているのではないのでしょうか。わたしたちはその責務を果たしているのでしょうか。

ジェンダーの問題ですとか、性の多様性というトピックに関心の深い方は、「男と女に創造された」「産めよ、増えよ」という言葉に違和感があるかもしれません。産みたくても産めない人もいるのに、という反応もあり得ると思います。しかし聖書は、命が生まれてくること、生まれても長く生きること、子孫が増え広がること、病気や自然災害、戦争、貧困などのため、現代のわたしたちよりはるかに困難な時代に、性の多様性というようなことは全く知られなかつた時代に書かれました。男と女とが結ばれて新しい命が生まれること、増えること、それは奇跡的なことだ、神の祝福だ。素直にそのことを喜ぶ感覚で、この言葉は書かれたのではないのでしょうか。

「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(第一章三一節)——これこそ、わたしたちの世界が、本当はそのようにあるべき姿なのです。

電話相談とメール相談

六 戸 信次郎

私が所属している いのちの電話は、四十六年以上、ボランティアが電話相談に取り組んでいます。東京で始まった運動ですが、現在ではほぼすべての県にセンターがあり、全国で七千人近いボランティアが関わっています。活動が始まった当時は、電話相談という仕組みがほとんどなかったこともあり、面接相談でなくては、まともな相談事業は出来ない、と厳しい意見がかなりあった、と聞いています。

ところが開局以来、電話は鳴り続け、残念なことに、なかなか電話が繋がらない、という状況が現在まで続いています。一人ぼつちで、悩みを抱えている方々が、いかにたくさんおられるのか、改めて思い知らされます。一方、当初は考えられなかった事態も起こり、相談体制の見直しを検討せざるを得ない状況も出てきました。そのひとつが、若い人たちの電話離れです。携帯電話の驚くほど急速な進歩により、SNS等の機能を使って、携帯電話で連絡を取り合う習慣が当たり前のようになりまし。最近、電車の中などで携帯電話に向かつてメールの書き込みに熱中している人をよく見かけます。もう若い人だけではありません。その結果、電話を使って会話をする習慣が、特に若い人を中心にかなりなくなってきたと感じます。

電話相談の現場でも、その傾向は顕著になり、開局当時はかなりの割合であった若い人からの電話相談がほとんどなくなりました。彼らに悩みが無くなったはずはありません。むしろ最近、自殺者が全体的に見れば減ってきている日本で、若者の自殺は減るところか、増えている傾向です。そんなこともあり、私の属する東京いのちの電

話では、十二年前からメール相談を始めました。当初、いのちの電話という組織に、メール相談はそぐわない、という異論もありました。

確かに、メール相談と言っても、十二年前に始めたメール相談は、相談者の気持ちと言葉のやり取りによって、その場で確認することが出来ないもので、電話相談とは違います。それでも、何とか工夫を凝らして、私たちはメール相談を軌道に乗せてきました。

大きな変化があったのが、昨年の座間における残酷な事件が、大きなきっかけになりました。悩みを抱えた多くの若者がSNSを通して、それまで全く関わりを持たなかった犯人と知り合い、無残に殺された事件です。この事件以来、マスコミも大きく取り上げましたし、国もLineなどのSNSを使った若者向けのメール相談に力を入れることになりました。この痛ましい事件に相談業務を行っている私たちが何もできなかったことに、少なからず、衝撃を受けました。

わたしなりにこの問題を考えると、今の若い人たちの中に、自分の中にある、死んでしまいたいとか、消えてしまいたい、というネガティブな気持ちを素直に話せる友達や大人が周囲にいないために、全く不特定多数の、見も知らぬ人に悩みを打ち明けてしまう傾向があるように感じます。そこに悪意を持った犯人が善意を装って接近し、今回の痛ましい事件になってしまった。本当の友人やちゃんとした大人が悩みを抱えた若者にきちんと関われば、こんな事件は起きなかったのではないかと思います。メール相談自体はまだ進歩の途中にあります。相談に応じる相談員に必要とされる資質も、徐々に明らかになるでしょう。ただ、孤独な心や悩みを抱えて立ちすくんでいる人に、心を通わせて、手を差し伸べるためには、テクニクではない、隣人に対

する愛が不可欠だと思っています。

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書十三章三十四節

この御言葉が欠けのある私の背中を押してくれています。主から与えられた掟を守る者になりたいと願っています。

報 告

*麻布南部坂教会の一〇〇周年(二〇二〇年)記念誌について、教会員の皆様にお一人八〇〇文字程度(より短くとも可)の原稿をお願いしております。内容は、一〇〇周年にあたって思うこと、思い出、詩や短歌など、自由にお考えなさって結構です(修正が入ることもありますので、ご了承ください)。原稿用紙に書いて牧師にお渡しくださるか、またはパソコン等で作成したデータをchurch@nanbuzaka.orgまでお送りください。締め切りは今のところはまだ設けず、臨時募集しております。ご協力をよろしくお願い致します。

*松谷牧師は、七月二十三日(月)〜二十七日(金)、及び八月十三日(月)〜二十一日(火)の期間、夏期休暇となりました。十九日(日)の主日第一礼拝では大司宣子役員、主日第二礼拝では六戸信次郎役員が奨励をしてくださりました。

*夏期伝道実習中の高橋神学生から、教会へ報告のメールをいただきました。掲示板をご覧ください。

*各献金(熊本・大分地震被災教会支援献金、東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を

を、引き続き宜しくお願いします。
*会堂のトイレを新しくしました。



《各部報告 八月度》

成人会

八月は休会
七月報告続き
ヨエル書はわずか四章の短い書でありながら新約聖書につながる重い預言が記されている。恐るべき主の日が黙示録の裁きを呼び起こし、主への立返りでは(ロマ書十章十三)パウロが引用している「主の御名を呼ぶ者は皆、救われる」の預言。初代キリスト教神学に重大な影響を与えたと言われている聖霊降臨の預言は、ペテロが使徒言行録(二章十四〜二十一)でペンテコステの出来事として引用している等々、小さな書であるが内容は大きく感じることがある。

二、次会は、ヨエル書一〜四章
次回…九月三十日 司会は鈴木晋兄
アモス書一〜六章
黙祷をもって閉会

婦人会

八月は休会